慢性子宮内膜炎及結核性子宮内膜炎ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30922

慢性子宮內膜炎及結核性子宮內膜炎ニ就テ

金澤醫科大學產科婦人科學教室(久慈教授)

水　美　登　利

一、緒　論

子宮內膜ノ週期的變化ノ、ヒツチユマン、アドレル兩氏ニ依リテ發見セラレテヨリ、未ダ十數年ヲ出デズ。然レドモ、其ノ後子宮內膜ノ生理的及ビ病理的知見ニ關スル業蹟ハ實ニ饒多ニシテ、汗牛充棟モ啻ナラズ。此ノ間最モ論爭ノ中心トナレルハ、慢性子宮內膜炎ノ病理ニシテ、爾來諸學者ノ努力ト研究トニヨリテ、慢性子宮內膜炎ノ組織的研究殆ド統一セリト雖モ、尙二三ノ疑點ナキニ非ズ。是レ余ガ子宮內膜ノ檢索ヲ行ヘル所以ニシテ、約一年有餘ニ亘リテ、金澤醫科大學婦人科教室ニ於テ、主トシテ搔爬ニヨリテ得タル粘膜片ノ新鮮ナルモノヲ、「フォルマリン」或ハ「アルコール」ニ固定シ、「パラフイン」切片トナシ、「ヘマトキシリン」及「エオジン」染色、ワンギーソン氏法、マイエル氏「ムチカルミン」染色法ヲ行ヒテ檢シタリ。

此ノ中搔爬ニヨリテ得タル粘膜ハ合計百三十五例ニシテ、此ノ外ニ尙摘出セル子宮ニ就テ檢セルモノ十五例アリ。摘出子宮十五例中筋腫ノタメ膣上部截斷術ヲ行ヘルモノ十三例ニシテ、外二例ハ出血ノタメ膣上部截斷術ヲ行ヘルモノナリ。

二、子宮內膜ノ週期的變化

子宮內膜炎ノ病理組織研究上ニ於テ、其ノ根本トナルモノハ、ヒツチユマン、アドレル兩氏ニヨリテ發見セラレタ

ル、子宮内膜ノ週期的變化ナリ。余ノ檢索ニ供シタル標本中、月經ノ正確ニシテ、順調ナルモノハ僅ニ八十一例ニ過ギズ。而シテ不正ナルモノ、或ハ出血アルモノ又ハ結核性子宮内膜炎ノ如キモノハ只之ヲ參考トナスニ止メタリ。八十一例ニ就テ、其ノ年齡ニヨリテ、區別スル時ハ次ノ如シ。

年齡	人員	年齡	人員
一八—二〇	七	二一—二五	三〇
二六—三〇	二三	三一—三五	八
三六—四〇	七	四一—五〇	六

又之ヲ分娩回數ニヨリテ分類スレバ左ノ如シ。

分娩回數	人員	分娩回數	人員
未產	三九	一回	八
二回	一五	三回	四
四回	六	五回	一
六回	一	七回	二
八回	二	九回	一
十二回	一		

而シテ之ヲ、ヒツチユマン、アドレル兩氏ノ月經週期時日ニヨリテ分類スルトキハ、

月經後期	一九	月經間歇期	三九
月經前期	二三		

ニシテ、搔爬ハ總テ、月經時ヲサケタルヲ以テ、月經中ニ屬スルモノハ一例モナカリキ。

以上ノ檢査セル内膜ニ就テ得タル所見ヲ、月經各期ニ就テ、綜括的ニ記述スルニ、

月經後二三日ニ於テハ、粘膜ハ甚ダ菲薄ニシテ、腺管ニ乏シク、腺管ハ直走シ、且狹小ナリ。腺上皮ハ高サ低ク、幅狹ク、原形質ニ乏シク、原形質ハ平等ニ「エオジン」ニ染色ス、核ハ桿狀ヲナシ「ヘマトキシリン」ニ濃染シ、核小體ハ不明ニシテ、核分裂像ヲ認メズ。粘膜間質ノ基礎層ハ筋層ノ結締織ヨリ連續セル稍纖維性ヲ呈セル結締組織ヨリ成リ、其ノ間質細胞ハ紡錘形ヲ呈ス、上層ニ於テハ原形質ニ乏シキ圓形ナル細胞ヨリナリ、其ノ核ハ「ヘマトキシリン」ニ良ク染色ス。而シテ、此ノ上層ニ於テハ、月經時ニ出血セシ、赤血球ノ集團トナリテ存セルヲ見得ベシ。粘膜ノ血管ハ少ク、基礎層ニ於テ、少數ノ小動脈ノ斷面ヲ認メ、上層ニ於テハ、少數ノ空虛ナル毛細管ヲ認ムルニ過ギズ。

月經後五六日ニ於テハ、粘膜基礎層ハ月經後二三日ノモノト比シテ、差違ナキモ、上層ハ稍肥厚シ、腺ハ直走シ、腺腔ハ尙狹小ナルモ、腺細胞ハ稍原形質ヲ增加シ、平等ニ「エオジン」ニ染色シ、粘膜上層ニ於ケル腺細胞ノ核ハ、圓形或ハ楕圓形トナリ、細胞ノ基底部ニ占居シ、染色度ハ月經後二三日ノモノニ比シテ減退シ、核小體ヲ明カニ認メ得ルモノアリ。或ハ核分裂像ヲ現出スルモノアリ。然レドモ粘膜ノ下層ニ於ケルモノニ於テハ此等ノ變化ハ著明ナラズ。

此ノ時期ニ於テハ、是等ノ細胞ノ外ニ、粘膜上皮及ビ腺細胞中ニ核ノ小桿狀或ハ長紡錘狀ヲ呈シ、「ヘマトキシリン」ニ濃染シ、細胞ハ原形質ニ乏シク、他ノ細胞ニ比シテ稍「エオジン」ニ濃染スルモノアリ。

間歇期ニ於テハ、粘膜ハ漸次肥厚シ、腺管ハ迂曲著シ。粘膜ノ基礎層ハ後期ノモノト大差ナキモ、粘膜上層ハ肥厚シ、所謂官能層ヲ形成シ、コノ部ニ於テハ腺細胞及ビ間質細胞增殖シ、間歇期初メニ於テハ、腺細胞ニ多數ノ核分裂像出現シ、間歇期中頃ニ至リテ其ノ極ニ達シ、腺上皮及ビ間質細胞中ニ多數ノ核分裂像ヲ認メ、コレガ爲ニ腺上皮ノ核ノ排列モ不整トナリ、腺管ハ迂曲ス。而シテ官能層ニ於ケル間質細胞ノ核ハ圓形或ハ卵圓形ニシテ「クロマチン」ニ富ミ、胞體ハ多稜形又ハ紡錘狀ヲ呈ス。

シュレーデル氏ハ間歇期ヨリ、月經前期ニ於ケル腺細胞ヲ詳細ニ觀察シ、腺細胞ヲ其ノ分泌現象ニ關シテ二型ニ分テリ。其ノ第一型ニ屬スルモノハ、間歇期ニ於テ、酸性嗜好性ノ原形質内ニ核ノ後方ニ明暈ヲ現出シ、漸次コノ明暈ガ細胞體内ニ擴大シ、月經前期ニ至リテ之ヲ腺腔中ニ分泌スルモノニシテ、第二型ノモノハ、カクノ如キ明暈ヲ現出セズ、細胞原形質内ニ「エオジン」ニ著色スル分泌顆粒ヲ現出シ、漸次細胞ハ肥大シ、月經前期ニ至リテ、同ジク之ヲ腺腔中ニ分泌スルモノナリ。此ノ二種ノ分泌現象ニヨリテ、腺腔中ニ分泌セラレタル物質ハ、共ニ「ムチカルミン」可染性ノモノニシテ、腺細胞ノ腺腔端モ亦「ムチカルミン」ニヨリテ染色セラルト言ヘリ。川添氏モ亦腺細胞ニ二型ノ分泌現象アルコトヲ承認スレドモ、氏ハ之ヲ以テ異レル二種ノ細胞トナサズ、同一種ノ細胞ノ分泌ノ時期ノ異ルニヨリテ生ズルモノナラント言ヘリ。

余モ亦同一粘膜ニ於テ、著明ニ此ノ二型ノ腺細胞ノ共ニ存スルコトヲ認メタレドモ、コノ二型ノ分泌現象ハ常ニ認メラルヽモノニ非ズシテ、時トシテ、全ク此ノ二型ヲ區別シ能ハザルモノアルヲ見タリ。

此等兩種ノ腺上皮ノ外ニ、腺上皮中或ハ粘膜上皮中ニ、細長キ腺細胞或ハ粘膜上皮細胞ニシテ、核ハ長紡錘狀或ハ小桿狀ヲ呈シ、「ヘマトキシリン」ニ濃染シ、其ノ構造不明ナル細胞ヲ認ムルコトアリ、而シテ本細胞ノ原形質ハ甚ダ少クシテ「エオジン」ニヨク染色シ、決シテ分泌顆粒及ビ明暈ヲ有セザルモノナリ。カクノ如キ細胞ハ月經後期ノ終リニ於テモ認メラルヽコトハ前述セル所ニシテ、時トシテハ、本細胞ガ全ク上皮列ヨリ脫離セントスルノ狀ヲ見ルコトアリ。アルブレヒト氏ハ此ノ小桿狀細胞ハ、氏ノ所謂不動性内膜增殖症ニ於テ屢々見得ルモノナリト稱シ、分泌物ヲ排出シ盡シタル腺細胞ノ、尙分泌物ヲ有スル隣接腺細胞ニヨリテ壓迫セラルヽガ爲ニ是ノ如キ形狀ヲ呈スルニ至ルモノナリトナセリ。余ノ經驗セル所ニヨルニ是ノ如キ小桿狀細胞ニ隣接シテ、原形質ニ富ミ、核ノ周圍ニ明暈ヲ有シ、著明ニ肥大セル腺細胞或ハ上皮細胞ヲ見ルコト比較的多キハ事實ナリト雖モ、コノコトハ必發ノ現象ニ非ザルノミナラズ、全ク分泌現象ノ缺如セル場合乃チ月經後期ノ粘膜ニ於テモ、是ト同一ノモノヲ認ムルコトアリ。シュレーデル

氏モ亦、月經週期ノ各期ノ粘膜ニ於テ、小桿狀細胞ヲ認メ、アルブレヒト氏ノ言ニ對シテ疑義ヲ述ベタリト雖モ、其ノ出現ノ意義ニツキテハ別ニ言及スル所ナシ。

而シテ是ノ如キ小桿狀細胞ハ、子宮粘膜ノミナラズ尙喇叭管粘膜上皮ニ於テモ亦認メラル、モノニシテ、喇叭管粘膜ニツイテ詳細ナル研究ヲナセル、シャッフェル氏ハ喇叭管粘膜上皮ニ於ケル小桿狀細胞ヲ以テ、分泌ヲ終リタルモノトナシ、時トシテ粘膜上皮列ヨリ脫離セルモノヲ見ルコトアリト言ヘリ。ホルツバッハ氏ハ分泌細胞ハ分泌ヲ終ヘテ小桿狀細胞トナリ、之ヨリ新上皮ヲ再生スルモノナリトナシ、動物ニ於テハ發情ト共ニ此者ノ數ヲ增加スト言ヘリ。而シテ余ハ前述ノ如ク、此ノ細胞ハ分泌旺盛ナル細胞ニ挾マレテ存シ、其ノ狀恰モ、隣接セル腺細胞ノ壓迫ニヨリテ生ジタルモノヽ如ク見ユルモノアレドモ、又月經後期ニモ存シ、細胞原形質ハ「エオジン」ニ良ク染色シ、分泌顆粒又ハ明暈ノ如キモノヲ有セズ、尙時トシテハ、上皮列ヨリ脫離セントスルガ如キモノアルヲ以テ、之ヲ以テ單ニ分泌ヲ終レルモノト見做スヲ得ズ、此ノ細胞ハ恐ラクハ分泌細胞ノ機能ヲ失ヒ、退行變化ニ陷リツヽアルモノナルベシト思惟ス。

月經前期ニ於テハ間歇期ニ增殖セル腺細胞及ビ間質細胞著シク肥大シ、所謂機能層ハ甚ダ肥厚シ粘膜ハ緻密層、海綿層ノ區別明カトナリ、腺管擴大シ海綿層ニ於テハ腺ノ內腔ハ鋸齒樣或ハ叢狀トナリ、腺上皮ニハ分泌ノ狀ヲ著明ニ認メ核ハ楕圓形或ハ圓形ニシテ大キク「ヘマトキシリン」ノ染色淡ク、原形質內ニ明暈ヲ有スルモノアリ。或ハ分泌物ヲ排泄シツヽアルモノハ腺細胞ノ腺腔端ハ破綻セリ、此ノ爲ニ其ノ核ハ細胞ノ基底ニ存スルモノアリ、或ハ腺腔ニ近キ部ニ存スルモノアリ。核分裂像ハ認メズ。核ノ「ピクノーゼ」ヲ月經前期ノ終リニ認ムト云フモノアルモ著明ナルモノヲ認メズ。而シテ腺細胞ノ原形質ハ「エオジン」染色性減退シテ、少シク「ヘマトキシリン」ノ色ヲトリ、細胞ノ腺腔端ハ不平トナル。腺腔中ノ分泌物及ビ分泌現象ノ著明ナル細胞ノ腺腔端ハ共ニ「ムチカルミン」ニヨリテ赤色ニ染色セラル。本物質ハヒツチユマン、アドレル兩氏ニヨレバ、粘液性ニシテ「ムチンヘマテイン」ニ可染ナリト言

ヒ、シユレーデル氏ハ「ムチカルミン」ニテ染色スト稱セリ。

官能層ニ於ケル間質細胞ハ、原形質ニ富メル圓形ノ大ナル細胞トナリ、核ハ淡明ニ染色シ、所謂脱落膜細胞樣トナル。カヽル腺細胞及ビ間質細胞ノ變化ハ、基礎層ニ於テハ明カニ發現セズ。

血管ハ小動脈著シク迂曲シ粘膜下層ニ於テ其ノ集合セル斷面ヲ認メ得ベク、上層ニオケル毛細管ハ擴張充盈シ、間質ニ處々出血アリ。

定型的ノ内膜週期的變化ガ如何ナル粘膜ニ於テモ、此ノ規準ニ隨ツテ行ハルヽモノナリヤ、又ハ如何ナル場合ニ於テ此ノ週期的變化ニ障碍ヲ來スモノナリヤ等ノ問題ハ、諸學者間ニ論爭セラレタル所ニシテ、ハルトゼ、ヒンメルヘーベル、アルブレヒト、ビュトネル、ケルレル、シツケレ氏等ハ依然腺性内膜炎ナル名稱ヲ保有スルヲ可ナリトナシシユレーデル氏ハ月經ヨリ算定セル日數ト、其ノ組織的所見ノ一致セザルモノヲ循環推移ト名ヅケ、ハルトゼ氏ハ同一標本ニ於テ、其ノ組織像ガ一樣ナル變化ヲ呈セザルモノヲ平衡障碍ト名ヅケタリ。

シユレーデル氏ノ所謂循環推移ハ、余ハ一例ノ結核性内膜炎ノ外ニ月經週期ノ定ラズシテ月經ノ前進或ハ後退スル婦人ニ於テ、月經後期ニ一例、間歇期ニ八例、前期ニ六例ヲ認メ得タリ。殊ニ月經後期ノ一例ハ月經後六日ニシテ既ニ腺管迂曲シ恰モ間歇期ノ中頃ニ相當スルノ像ヲ呈セリ。カヽルモノヲ月經ノ正調ナルモノ八十一例中ニ求ムルニ後期ニ於テハ一例モナク、間歇期ニ於テ二例ヲ得タリ。而シテ月經前期ニ於ケル粘膜ニシテ腺管ノ狀態尙間歇期ノ終リノ如キ像ヲ呈シ、腺腔ニハ鋸齒狀或ハ叢狀ノ突起ヲ有セズ迂曲スルニ止マリ、而モ腺細胞ハ月經前期ノ如ク著明ナル分泌ノ狀ヲ認ムルモノアリタリ。カヽルモノニ於テハ間質細胞ノ肥大モ著シカラズ。然レドモ余ハカクノ如キモノハ循環推移トナサズシテ月經前期ニ算入シ、此ノ差異ヲ以テ個人的ノ相違或ハ年齡ニヨリテ生ジタルモノナルベシト思考ス。

尙前述セル定型的ノ週期的變化ニ隨ハザルモノニ、アルブレヒト氏ノ所謂不動性腺增殖症及ビバンコー氏等ノ所謂

出血性メトロパチー」ナルモノアリ。余ハ氏等ノ言ヘルガ如キ組織的特徵ヲ有セザリシモ、臨床的原因不明ナル出血永ク持續シ觸診ニヨリテ筋腫結節ヲ觸知セザリシ子宮ノ十一例ヲ見タリ其ノ中三例ニ於テ粘膜肥厚シ腺管ノ排列不整ニシテ腺管ノ狹少ナルモノ、或ハ甚ダシク擴大セルモノアリ又ハ囊狀トナレルモノアリ、腺上皮ハ丈ヒクキ圓柱狀ヲ呈シ、核ハ細胞體ノ基底ニ占居シ、分泌現象ハ著明ナラズ、殊ニ壅狀トナレル腺ノ腺上皮ハ骰子形ノ細胞トナレルモノヲ見タリ。他ノ二例ニ於テハ內膜ニ炎症性浸潤ヲ認メタレドモ、其他ノ六例ハ間歇期或ハ月經後期ニ相當セル組織像ヲ呈シ、何等記スベキ變化ヲ認メ得ザリキ。尙又シュレーデル氏ノ所謂存續性濾泡ノ存在ニヨリテ粘膜ノ肥厚及ビ腺ノ不整ナル增殖並ニ之ニ次グニ粘膜ノ壞死及ビ出血ヲ來ス出血性メトロパチー」ノ定型的ノモノハ余ノ例ニ於テハ之ヲ發見シ得ザリキ。

流產後出血セルモノ三例アリ。此等ノモノハ皆、粘膜肥厚シ、腺ニ著明ナル增殖及ビ肥大アリ、腺管ノ斷面ハ何レモ、オビッツ氏ノ所謂姙娠腺ノ像ヲ示シ、內腔ハ鋸齒狀或ハ叢狀トナリ、腺管ノ甚ダシク擴大セル部分ニ於テハ、間質ハ只狹キ中隔ヲナスニ止マレルガ如キ觀ヲ呈シタリ。此ノ三例中ノ一例ニ於テハ粘膜中ニ退行變性セル絨毛ノ一部ヲ發見シ得タリ。尙出血ノ外ニ明カニ月經ヲ判定シ得タル一例アリ。此ノ場合ニ於テハ搔爬ハ其ノ間歇期ニ於テ行ハレタルニ拘ラズ、其ノ粘膜ニハ他ノ二例ト同ジク腺管ノ增殖及ビ肥大ヲ證シ得タリ。其ノ詳細ニツキテハ後ニ述ブル所アルベシ。

子宮內膜炎ニヨリテ不正ナル出血ヲ來スコトアリヤ、及ビ間質ニ於ケル炎症性浸潤ガ週期的變化ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルヤ等ノ問題モ諸家ノ間ニ種々ナル意見ノアルトコロニシテ、ヒッチユマン、アドレル兩氏ハ月經正調ナル間ハ粘膜ノ週期性變化ハ障碍ナシト言ヒ、且子宮內膜炎ト不正出血トノ間ニ原因的關係ヲ認メズト言ヘリ。シュレーデル氏モ子宮內膜ノ週期性ハ、アラユル刺戟ニ對シテ抵抗强キモノナリト言ヒ、一般ニ今日ニ於テハ、子宮內膜炎ハ往時信ゼラレタルガ如クシカク不正出血ノ原因トナルモノニアラズトナスモノ多キガ如シ。余モ亦慢性內膜炎ト

目スベキ粘膜ニシテ、相當ナル炎性變化ヲ有スルモノ、三十四例中、月經正調ニシテ持續日數モ普通ナルモノ二十例、月經ハ前進或ハ後退スルモ不正ナル出血ナキモノ六例、出血アルモノ八例ヲ得タリ。然レドモ出血アリシ八例中六例ハ筋腫子宮ニシテ内膜炎ヲ合併セルモノナリ。而シテ尚コノ外結核性子宮内膜炎十五例ニ就テ見ルニ月經ノ持續日數短ク血量少キモノ多キモ週期ニ變化ナキモノ十一例ニシテ、出血アルモノハ僅カ二例ニ過ギズ、他ノ二例ハ月經過少或ハ無月經ナリ。此ヲ以テ見ルニ、子宮内膜炎ハ子宮出血ノ原因トナルコト比較的稀ナルヲ知ルベシ。而シテ炎症性浸潤ガ、内膜ノ週期的組織像ニ及ボス影響ヲ觀察スルニ、間質ノ炎症性浸潤ハ、週期的形態的變化ニ著シキ影響ヲ與ヘズ、腺型ノ如キハ正規ノ週期像ヲ呈ス。然レドモ炎症性ノ變化甚ダシク進捗セルモノニ於テハ、週期的變化ニ相當ノ影響アルヲ免レズ。而シテ月經前期ノ子宮内膜ニシテ其ノ官能層ニ浸潤アルモノハ、腺ノ形態ニ變化ナキモ、腺上皮ニ分泌現象ヲ缺如シ、間質ニ水腫ヲ來シ、間質細胞ノ脱落膜細胞樣變化ノ不充分ナルコト多ク、且其ノ細胞體ノ溷濁ヲ來シ、原形質正常ノ如ク明カナラズ。

授乳性無月經ノ際ニ、子宮内膜ノ如何ナル組織像ヲ呈スルカニ就テハ確實ナル報告ナキガ如シ。授乳中一回モ月經ナクシテ、姙娠スル婦人アルヲ以テ見レバ、無月經中ニ於テモ卵巣ニ於テ週期性變化ノ存スルヤ明カナルヲ以テ、子宮内膜ニ於テモ之ニ伴フテ、多少週期性變化ノ營爲セラルヽヲ想像シ得ベシ。川添氏ハ氏ノ搔爬ニヨリテ得タル粘膜ノ所見ニヨリテ、無月經中ト雖モ、腺及ビ間質ハ一定度迄週期的變化ヲ營爲スルモノニシテ、全ク靜止ノ狀態ニアルコトナシト雖モ、只其ノ「ホルモン」弱キヲ以テ、遂ニ月經ヲ潮來スル强度ニ達セズシテ退行スルヲ以テ、月經ヲ來スニ至ラザルモノナル可シト言ヘリ。而シテ氏ハカクノ如キ無月經ノ場合ニ於テハ、搔爬ハ一種ノ刺戟トナリテ月經來潮スルコトアリトナセリ。

余ノ材料中、無月經中ノ婦人ヨリ得タルモノ四例アリ。此等ノモノハ何レモ皆出産後半年以上ヲ經過シテ尚無月經ナルモノナリ。此中二例ニ於テハ粘膜ニ於ケル腺ハ少數ニシテ、腺腔多クハ狹少ナルモ又分岐セルモノアリ、腺上皮

ハ丈低キ圓柱狀ヲナシ、圓形又ハ卵圓形ナル核ヲ基底部ニ有シ、核小體ハ明カナラズ、核ニ分裂像ナク、腺細胞ノ原形質ハ平等ニ「エオジン」ニ染色シ、分泌現象ヲ認メズ腺腔モ空虛ナリ。間質ニ於テハ下層ハ紡錘形ノ細胞ヨリナリ筋層ノ結締織ヨリ纖維ノ走行ヲ追及シ得ベシ。上層ハ主トシテ圓形又ハ星芒狀ノ細胞ニヨリテ形成セラレ、間質ニハ白血球、淋巴球及ビ「エオジン」細胞ヲ認メ得ベシ。而シテ他ノ二例ニ於テハ、粘膜菲薄ニシテ、恰モ月經後期ノ如ク、腺ハ走行眞直ニシテ、腺腔ハ甚ダ狹少ナリ。腺上皮ハ細長キ圓柱狀ヲ呈シ、紡錘形或ハ桿狀ノ核ヲ有シ、核分裂像ナク、分泌現象ヲ認メズ、腺腔空虛ナリ。間質ニハ少數ノ淋巴球及ビ「エオジン」嗜好細胞ヲ認ムル外著變ヲ認メズ。

以上ノ所見ニヨレバ、無月經時ニ於ケル粘膜ハ月經後期ニ似タル所見ヲ呈スルモノ多ク、從ツテ腺上皮ニ分泌現象ヲ認ムルモノナシ、若シ同一婦人ニ就テ、異リタル時期ニ於テ二回ノ搔爬ヲ行ヒ得ルコトアラバ、無月經時ニ於ケル粘膜ニ就テ比較的正確ナル所見ヲ得ベキモ、此ノ如キ機會ハ容易ニ得ベキモノニ非ザルヲ以テ、余ハ暫ク以上ノ如キ所見ヲ以テ、無月經時ニ於ケル粘膜ノ狀態ナリトナサントス。

三、慢性子宮內膜炎

ヒツチユマン、アドレル兩氏ハ、ルーゲ氏ノ分類シタル、腺性內膜炎ハ畢竟月經前期ニ於ケル、內膜ノ生理的變化ニ過ギズシテ、毫モ炎症ヲ以テ目スベキモノニ非ズトナシ、子宮內膜炎ノ際ニハ、間質ニ於テ必ズ炎症ノ存在ヲ證明シ得ベキモノニシテ、此中ニ於テ「プラスマ」細胞存在ハ其ノ最モ重要ナル徵候ノ一ナリトナセシヨリ以來、之ニ關スル研究其ノ數甚ダ多シト雖モ、今日尙一致スルトコロナキハ周知ノ事ナリ。

慢性子宮內膜炎ニ於テハ、間質ニ於テ、小圓形細胞ノ浸潤アルモノニシテ、コノモノ、存在ヲ以テ、炎症ノ存スル徵トスルコトヲ得ベシトハ、アルブレヒト氏ノ稱ヘタル所ニシテ、ヒツチユマン、アドレル、シユレーデル氏等ノ賛スル所ナリ。然レドモ、小圓形細胞ハ時トシテ、粘膜基質細胞ニ類似シ且月經各期ヲ通ジテ、生理的ニ粘膜ニ存在ス

ルモノ、如ク、余ノ研究ニ供シタル、粘膜ニ於テモ臨床上何等ノ異常ヲ認メザリシ婦人ニ於テ、月經各週期ヲ通ジテ、官能層ニ散在性ニ之ヲ認メ得タリ。尚ヒッチユマン・アドレル氏等ハ「プラスマ」細胞ノ存在ヲ以テ炎症ノ證左トナセリト雖モ、其ノ後シユワーブ氏ノ研究ニヨルニ、此者モ炎症ニ必發ニ非ズシテ、炎症ノヤヽ陳舊トナルヤ消失スルモノナルヲ以テ、組織的變化ノ迅速ニ行ハルヽ子宮内膜ニ於テハ、其ノ存在ノ期間不定ナルヲ常トシ、從ツテ搔爬粘膜ニ於テハ之ヲ證明シ得ルコト稀ナリト言ヘリ。佐藤氏モ炎症アル粘膜二十例中只二例ニ於テノミ「プラスマ」細胞ヲ染色シ得タリト言ヒ、ビユトネル氏モ此ノ細胞ノ意義ニ就テ疑フトコロアルガ如シ。

子宮内膜ノ組織的變化ノ迅速ニシテ其ノ所見ノ一定セザルコトハ、川添氏ノ報告ニ於テモ之ヲ窺知シ得ベシ。同氏ハ同一婦人ニ於テ第一回目ノ搔爬ニ於テ、炎症ノ存在ヲ證明シ得タリシ粘膜ノ、第二回目ノ搔爬ニ於テ、其ノ粘膜ニ炎症ヲ認メ得ザリシモノアリシコトヲ論ジ、圓形細胞浸潤ノ强度ニシテ且瀰蔓性ニ存スル場合、又ハ大小不同ナル多數ノ竈狀浸潤アル場合ヲ以テ、炎症ノ存在セルモノナリトナセリ。余ハ余ノ觀察セル百五十例ノ粘膜中、十五例ノ結核性子宮内膜炎ノ外尚、三十四例ニ於テ粘膜ニ此ノ如キ、小圓形細胞ノ浸潤ヲ認メタルヲ以テ臨床上ノ事項ト照合シテ、之ヲ慢性子宮内膜炎トナセリ。

粘膜間質ニ、屢々濾泡樣ノ外見ヲ呈スル限局性ノ圓形細胞群ヲ發見スルコトアリ。シユレーデル氏ハ、此ノ如キ細胞群ヲ百二例ノ中七例ニ於テ發見シ、本圓形細胞群ヲ以テ子宮内膜ニ於ケル淋巴濾泡ナリトナシ、其他ヒッチユマン、アドレル氏等モ之ヲ以テ、淋巴濾泡トナセリ。而シテ、デーデルライン氏ハ之ヲ以テ炎症ニヨリテ新生セル濾泡ナリトナシ、フアイト氏ハ淋菌性内膜炎ニ於テ出現スルモノナリト言ヒ、大槻氏モ此ノ說ヲ贊セリ。又川添氏ハ、之ヲ以テ慢性炎症性刺戟ニヨリテ新生セル淋巴濾泡ナリトナシ、炎症性浸潤ナキ粘膜ニ於テハ之ヲ認ムルコト稀ナルニ反シ、此ノ浸潤强度ナルモノニ於テハ、之ヲ見ルコト甚ダ多キコトヲ論ジ且此ノ圓形細胞群ハ、シユレーデル氏ノ言ヘルガ如キ、眞ノ淋巴濾泡樣構造ヲ缺如スルヲ以テ之ヲ假性濾泡トナスヲ適當トスト言ヘリ。其他メンヒ氏ハ三百七十一例

ノ粘膜中百十一例ニ於テ、此ノ如キ濾泡ヲ認メ且ツ、此ノ濾泡ハ周圍ノ間質ト明瞭ニ境界セラレ、中央ニ胚種中心ヲ有シ、尙時ニ網狀織內皮細胞ヲ認ムルコトアリ、而シテ炎症性浸潤ト異リ此ノ細胞集團中ニ白血球、基質細胞及ビ「エオジン」細胞、「プラスマ」細胞ノ存スルコトナキヲ證シ、此ノ濾泡ハ生理的ニ存在スルモノニシテ、粘膜ノ機能ト關係アルモノヽ如ク、好デ粘膜ノ增殖期ニ於テ出現スルモノナリト言ヘリ。

余ノ檢セル粘膜總數百五十例中、十五例ノ粘膜ニ於テ、此ノ濾泡ヲ發見シタリ（中四例ハ、摘出子宮ノ內膜ニ於テ認メタルモノナリ）。然レドモ、シユレーデル氏及ビメンヒ氏ノ言ヘルガ如ク、明カニ胚種中心ヲ有シ、網狀織內皮細胞ヲ認メタルモノ一例モナカリシノミナラズ、濾泡ノ邊緣部ニ於テハ、基質細胞ト此ノ圓形細胞ト相錯綜セルモノアルコトヲ認メ得タリ。而シテ此ノ濾泡ノ出現スル時期モ亦メンヒ氏ノ言ヘルガ如ク必ズシモ增殖期ニ限ラレタルモノニ非ザルガ如ク、且粘膜下層及ビ中層ニ之ヲ見ルコト多キハ事實ナレドモ、余ハ一例ニ於テ此者ノ上皮下ニ存スルモノヲ見タリ。而シテ余ノ例中只二例ヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ、粘膜ノ他ノ部分ニ於テ、瀰蔓性或ハ大小不同ノ圓形細胞ノ浸潤ヲ認ムルヲ常トセリ。故ニ余モ亦、デーデルライン氏及ビ川添氏等ト同ジク此ノ濾泡ハ炎症ニヨリテ新生セラレタルカ、又ハ炎症ノ後貽症トシテ出現セルモノナルベシト信ズ。

ヘンケル氏ハ、子宮內膜炎ニ於テ內膜ノ血管ハ重要ナル變化ヲ示スモノニシテ、腺性內膜炎ニ於テ小動脈ノ集簇セル斷面ヲ認ムルモノナリトナセリト雖モ、シユレーデル氏ハカクノ如キ小動脈ノ集合セル斷面ハ、月經前期ニ於テ粘膜ノ基底層ニ於テ認ムル所ナリトナセリ。余モ亦此ノ如キ集簇セル小動脈ノ斷面ハ、月經前期ノ粘膜ニ於テ殆ド除外ナク證シ得タルヲ以テ之ヲ以テ、月經前期粘膜ノ迂曲セル血管ノ斷面ナルベシト思考ス。而シテ筋腫子宮內膜ノ炎症性浸潤ヲ有シ粘膜ノ著明ニ肥厚セルモノニ於テハ、月經前期ナラザル時ト雖モ、粘膜ノ下層及ビ中間層ニ於テモ尙多數カヽル血管斷面ヲ發見シ得タリキ。要スルニ、カヽル血管ノ斷面ハ生理的或ハ炎症ニヨリテ、粘膜ノ肥厚セルトキニ認メラルヽモノナルベシ。

余ノ例中、腺ノ擴大著シク一見肥大セルモノ七例アリ、其中三例ハ流産後ノ内膜炎ニ屬スルヲ以テ一般ノモノト區別スルヲ要ス。而シテ他ノ四例ハ手術ノ時期何レモ、月經前期ニ相當セルモノニシテ、其中二例ハ粘膜肥厚シ、腺腔擴大シ、内腔ハ鋸齒狀ヲ呈シ、間質ハ狹キ中隔ヲナスニ止マレルガ如キモノアリ。腺管内容ハ、淋巴樣物質及ビ白血球、淋巴球ノ少數ヲ有シ、間質ハ疎解シ水腫アル所アリ。間質細胞ハ原形質ニ富ムモ、細胞體溷濁シ核ハ染色ノ度弱ク、其ノ間ニ著明ナル多核白血球及ビ單核白血球ノ浸潤アリ。小動脈ノ周圍ハ原形質ニ富メル紡錘形細胞ヨリナリコノ部分ニハ浸潤少シ。

他ノ二例ハ腺管内腔ハ鋸齒狀ヲ呈シ、擴大セリト雖モ、其ノ上皮ハ丈低ク、骰子形ヲ呈シ、核ハ陰影狀ニ染色シ、基底ニ占居ス、間質ニ於テハ輕度ナル瀰蔓性ノ圓形細胞浸潤アリ。更ニ其ノ一例ニ於テハ粘膜ノ基底部ニ濾泡樣外觀ヲ有スル圓形細胞群ヲ認ム。卽チ此等四例ノ所見ヲ見ルニ、内膜ニ炎症アル場合ニハ、月經前期ニ於テ、粘膜ノ肥厚及ビ腺ノ肥大ヲ認ムルガ如キモ、其ノ腺上皮及ビ間質細胞ノ性狀ヲ見ルニ、多少退行變性ノ傾向ヲ示シ其ノ機能ノ障碍セラレタルヲ想像シ得ベク、從ツテ之ヲ以テ眞ノ肥大トナスコトヲ得ザルガ如シ。

内膜ニ於テ、多數ノ腺管ノ囊狀ニ擴大セルモノ五例アリ。其中三例ハ臨床上子宮出血アリシモノナリ。カヽル囊狀ニ擴大セル腺腔中ノ内容ハ、多クハ無定形物質ニシテ、之ニ淋巴球ヲ混ズルコト多キモ、又時トシテハ内容全ク空虛ナルモノアリ。而シテコノ腺上皮ハ丈低クシテ骰子形ヲ呈シ、分泌現象ヲ認メズ、間質ニハ瀰蔓性或ハ限局性ノ圓形細胞ノ浸潤アルモノ多シ。然レドモ此ノ囊狀ノ腺ハ炎症ニヨリテ生ゼルモノナリヤ又ハ「メトロパチー」ノ初期ト思考スベキモノナルヤ或ハ他ノ原因ニヨレルモノナリヤハ搔爬粘膜ノ少數ノ例ニ於テ決定シ難シ。

粘膜ノアル一部ニ於ケル腺ノ周圍ニ圓形細胞ノ浸潤特ニ强キモノ卽チ所謂腺周圍炎ノ像ヲ呈スルモノアリ。此ノ如キ腺管ニ於テハ、腺上皮ハ溷濁シ、原形質ハ「エオジン」ニ强ク染色シ、核ノ染色度ハ減退シ陰影狀ニ染色シ、桿狀又ハ橢圓形ニシテ、上皮間ニ淋巴球浸潤シ、上皮ノ核ノ排列ハ不整トナリ、アルモノハ腺腔中ニ脫離シ、淋巴球及ビ炎

症性滲出物ト共ニ腺腔中ニ認メラルヽニ至ル。

月經前期粘膜ニシテ其ノ官能層ニ炎症性浸潤ヲ證明スル場合ニ於テハ、間質細胞ノ膨化及ビ其ノ細胞體ノ溷濁ト間質ニ於ケル水腫ヲ來スコト多キヲ認メタリ。此ノ所見ハ、アルブレヒト氏ノ炎症ノ徵トシテ擧ゲタル所ナリ。

余ノ材料中、姙娠三乃至四月ノ流產後、不正ナル子宮出血ノ爲流產後二乃至三箇月ヲ經テ、診斷的搔爬術ヲ施行セラレタルモノ三例アリ、而シテ此等三例ハ組織的ニ略同樣ナル所見ヲ呈シタリ。此等ノ粘膜ハ皆何レノ場合ニモ著シク肥厚シ、腺ハ增殖肥大シ、腺腔ノ擴大著明ニシテ鋸齒狀、乳嘴狀、叢狀ヲ呈シ、其ノ橫斷面ハオピッツ氏ノ姙娠腺ノ如キ狀態ヲ示セリ。腺ノ擴大ハ粘膜中層ニ相當シテ最モ著明ニシテ、上層ノ間質ハヤヽ緻密ナリ。基底層ニ於テモ腺管多少擴大シ橫斷面ハ星芒狀ヲ呈ス。腺細胞ハ低キ圓柱狀又ハ骰子形ヲナシ、核ハ圓形又ハ卵圓形ニシテ、細胞基底部ニ占居シ、核分裂像ヲ認メズ。間質ハ基底部ニ於テハ、紡錘形ノ細胞ヨリ形成セラレ、中層以上ニ於テハ、圓形ナル一核ヲ有セル、比較的原形質ニ乏シキ多稜形ナル細胞ヨリナル。此ノ間ニ於テ瀰蔓性ノ輕度ナル淋巴球及ビ白血球ノ浸潤ヲ認メ得ベク、粘膜下層ニ於テハ、限局性ノ小圓形細胞ノ集團ヲ發見セリ。血管ニ就テハ、粘膜ノ中及ビ下層ニ於テ、迂曲セル小動脈ノ斷面ヲ見ルコト多ク、其ノ周圍ニ於テハ、原形質ニ富メル紡錘形ノ一核ヲ有スル結締織細胞ヲ認ム。粘膜上層ニ於ケル毛細管ハ著シク擴張充盈シ、間質ニ出血セル部分アリ。

四、結核性子宮內膜炎

余ハ子宮內膜ノ檢索中、偶然十五例ノ結核性子宮內膜炎ヲ發見セリ。而シテ其中ノ九例ニ就キテハ既ニ日本婦人科學會雜誌ニ報告セルヲ以テ、其ノ後ニ得タル六例ノ本症ニ就テ、其ノ臨床上及ビ組織的檢索ノ結果ヲ報告セントス。

實驗例

第一例。新○静○。三十一歳。一回經産婦。

既往症、遺傳的ニ記述スベキモノナク、同胞五人健存シ幼時ヨリ特記スベキ疾患ニカヽリシコトナシ。

月經ハ十五歳ニシテ初メテ來潮シ、爾來順調ニシテ、持續日數五乃至七日間、經血量中等、月經時障碍ヲ認メズ。二十三歳ニシテ結婚シ翌年姙娠セシモ、其ノ第二ケ月頃ヨリ時々出血アリ、遂ニ姙娠第六ケ月ニ於テ流産セリ。

二三年來、月經ハ二乃至三日前進又ハ後退シ、持續日數二乃至三日、經血量少量トナリ、腰部疼痛及白帶下アリ。

終經、二月十五日ヨリ十七日迄。

主訴、腰痛、白帶下。

現症、胸部及腹部臓器ニ異常ヲ認メズ、體溫平溫。外陰部及腟正常、子宮前傾前屈、大サ及移動性ニ異常ナク、硬度ヤヽ硬ク壓痛ナシ。子宮腟部ハ圓壔態ニシテ、大キサ正常、表面ニ大ナル糜爛アリ。子宮外口ハ殆ンド圓形ニシテ白色粘稠ナル分泌物アリ。附屬器ハ觸知シ難シ。

手術、三月二日、内膜搔爬術、喇叭管通氣法。子宮腟ハ七糎、喇叭管ハ兩側共百二十(タイコス血壓計ニ據ル)ニテ可通ナリ。

組織的所見。

本例ハ臨床上月經間歇期ノ終ニ於テ搔爬シタルモノナルニ拘ラズ、粘膜菲薄ニシテ、腺腟狹小、且其ノ數ニ乏シク、全體ノ狀況月經後期ノ如キ像ヲ呈シ、循環推移ノ狀著明ナリ。而シテ粘膜間質ノ何レノ部分ニ於テモ多數ノ小ナル又ハ融合セル稍大ナル結節ヲ認メ、全體ニ亘リテ淋巴球ノ瀰漫性ノ浸潤アリ。

結節ハ多核巨大細胞及染色可良ニシテ、種々ナル形ノ(棍棒狀、紡錘狀、楕圓形)核ヲ有スル結締織細胞及淋巴球ヨリ形成セラレ、其ノ結節ノ邊緣部ニ於テハ特ニ密ナル淋巴球ノ浸潤ト多數ノ「プラスマ細胞ヲ認ムルコトヲ得。

腺管中腺上皮ハ甚シク增殖シ、種々ナル形ヲ呈シ、多層トナレル所アリテ、其ノ部分ノミニ就テ見ルトキハ恰モ腺癌ノ初期ノ如キ觀ヲ呈スレドモ其腺上皮ニ核分裂像ナシ。又腺管ノアルモノハ滲出物ニヨリテ不整形ニ擴大セラレタルモノアリ。

第二例。中○外○子。二十六歳。未産婦。

既往症、遺傳的及家族的ニ記スベキコトナシ。十九歳ニシテ肋膜炎及腹膜炎ヲ經過ス。十九歳ニテ結婚ス。初經ハ十八歳ノ六月來潮シ、爾來正調週期三十日。持續日數四日間、經血量中等、月經時ノ困難症狀ナシ、數年以前ヨリ白帶下多量ナリ。

經經、四月十七日ヨリ二十日マデ。

主訴、不姙症、白帶下。

現症、胸部及腹部ニ認ムベキ變化ナク體溫平溫ナリ。外陰部發育尋常、陰毛發生中等度、腟ニ變化ナシ。子宮ハ後傾後屈シ、後方ニ癒著シ大サ少シク小、硬度尋常ナリ。子宮腟部ハ普通大ニシテ、表面ニ小ナル糜爛アリ子宮外口ハ圓形ニシテ、分泌物ハ白色ヲ帶ビ粘液樣ナリ。右側附屬器ハ少シク肥厚スレドモ壓痛ナシ。左側附屬器ハ觸知シ難シ。

手術、五月四日、開腹術、子宮内膜搔爬。

開腹時ノ所見、腸ノ漿膜ニ多數ノ散在セル、粟粒大ノ結節ヲ認メ、ドウグラス氏窩ニ於テ少量ノ液狀滲出物アリ。子宮ハ後傾後屈シ子宮腟八糎アリ。

右側喇叭管ハ拇指大ニ肥厚シ、壁ハ厚ク剪彩端閉鎖シ、同側ノ卵巢ト纖維性ニ癒着ス。左側喇叭管ニ於テ、其ノ漿膜面ニ結節ヲ認メ、剪彩端ハ閉鎖セリ。兩側卵巢ニハ外觀上變化ヲ認メズ。

組織的所見。

本例ハ月經間歇期ノ中頃ニ搔爬セルモノニシテ、其ノ組織的所見モ亦月經過期ニ相當シ、腺腔ハ尙狹小ナルモ、多少迂曲セルモノアリ。腺上皮ニ核分裂像ヲ認メズ。間質ニハ瀰蔓性ノ圓形細胞ノ浸潤ト輕度ノ水腫アリ。結節ハ粘膜ノ官能層ニ於テ極メテ少數ニ散見シ、上皮ノ直下ニ存在スルモノモアリ。結節ノ形態ハ他ノモノト同樣ナルモ、淋巴球ノ結節ノ周圍ニ群集スルコト少キガ如シ。腺及腺上皮ニ特記スベキモノヲ認メズ。

第三例。江○文○。二十三歳。未產婦。

既往症、遺傳的ニ記スベキ疾患ナシ。兩親及同胞二人何レモ健在ス。十五歳ノ時、肋膜炎及腹膜炎ヲ經過ス。十九歳ノ九月結婚ス。

初經十四歳、週期四週、持續三日間、血量中等、數ヶ年以前ヨリ白帶下アリ。約半年程以前ヨリ月經ニ際シ、下腹痛、腰部ノ疼痛アリ。

終經、四月十日ヨリ十三日迄。

主訴、不姙症、月經困難、白帶下。

現病、胸部及腹部ノ臟器ニ著變ナク、體溫平溫ナリ。外陰部及腟ニ異常ナク、子宮ハ後轉シ、後傾後屈シ、ヤヽ大キク硬度硬ク、後方ニ癒著シ壓痛アリ。子宮外口ハ圓形ニシテ後、ニ小ナル糜爛アリ。分泌物ハ粘液樣ニシテ多量ナリ。右側喇叭管ハ手指大ニ肥厚シ蛇行セリ。

手術、五月八日、開腹術、子宮內膜搔爬。

開腹時ノ所見。子宮ハヤヽ大ニシテ、硬度尋常、子宮ノ漿膜面ニ粟粒大ノ白色ヲ帶ビタル結節少數アリテ、後方ニ癒著ス、喇叭管ハ兩側共ニ手指大ニ肥厚シ蛇行シ、卵巢ト固ク癒著セリ。右側卵巢ニ鷄卵大ノ血腫アリ。左側卵巢ハ外觀上變化ナシ。癒著ヲ剝離シ、右側喇叭管及卵巢剔出術、左側圓靱帶短縮術ヲ行フ。子宮腔ハ八糎、粘膜肥厚ス。

組織的所見。

本例ハ月經前期ニ於テ搔爬セル粘膜標本ニシテ、搔爬ノ際、肉眼ニテ既ニ其肥厚セルヲ認メタリシガ、顯微鏡下ニテハ、粘膜間質ニ水腫ノ狀況著明ナルヲ見ル。腺ハ迂曲擴大シ、腺腔ハ鋸齒狀及叢狀ヲ呈シ、比較的健常ナル粘膜ハ月經前期ノ像ヲ呈セリ。然レドモ腺上皮及間質細胞ヲ詳カニ觀察スルニ、腺上皮ハ分泌現象不充分ニシテ、間質細胞モ亦月經前期脫落膜細胞樣觀ヲ呈セズ、細胞體溷濁シ、水腫ノタメ間質疎解セリ。本標本ノ結核性變化ハ多種多樣ニシテ、瀰蔓性ノ淋巴球ノ浸潤可成强クシテ其ノ間多核巨大細胞及類上皮細胞、淋巴球ヨリナレル定型的結節散在シ、上皮下ニ於テモ此ノ如キ結節ノ少數ヲ認ム。

腺周圍ニ於テ、淋巴球浸潤强クシテ所謂腺周圍炎ノ狀ヲ呈スルモノニ於テハ、腺上皮ハ種々ノ程度ニ退行變性シタルヲ見ル。即チ腺上皮ハ溷濁シ原形質ハ强ク「エオジン」ノ色ヲトリ、核ハ陰影狀ニ染色スルモノ多ク、腺腔中ニハ淋巴球及白血球ノ滲出アリ。或ハ大量ノ乾酪樣變性ヲ呈セルモノヲ見ルコトアリ。或ハ又腺ハ著シク擴大シ、囊狀トナリ、內腔ニハ液狀滲出物ヲ有スルモノアリ。カヽルモノハ其腺上皮ハ丈低ク骰子形或ハ內被細胞樣ニ扁平ナル細胞ニ變化セリ。

「ムチカルミン」染色ヲ行フニ腺腔中ニ可染性物質ヲ認ムルコト能ハズ。

第四例。櫻○ひ○。四十歳。一回經產婦。

既往症、幼時ヨリ著患ナシ。

初經ハ十八歳ニシテ來潮シ、爾來順調ニシテ三十日每ニ來潮ス。持續日數ハ初メハ五日間、血量モ多カリシモ、近來持續四日間トナリ、初メノ二日間ハ多量ナルモ後二日間ハ極メテ少量ナリ。十九歳ニテ結婚シ、二十三歳ノ時、姙娠五ヶ月ニテ流產セリ。二三年以前ヨリ下腹部ニ疼痛アリ。月經中ニ特ニ甚シキコトアリ。

終經、四月十日ヨリ四日間。

主訴、下腹部疼痛、四肢ノ知覺異常。

現症、體格中等、榮養可良、肥滿セル婦人ニシテ、體溫ハ平常ナリ。胸部ニ變化ヲ認メズ。腹部ハ稍々膨隆シ、皮下脂肪多量ニシテ、壓痛及低抗ナシ。

外陰部及腟ニ異常ヲ認メズ。子宮ハ前傾前屈、少シク大キク、硬度尋常可動性ナリ。壓痛ナシ。左側附屬器ハ肥厚腫脹シ、壓痛アリ。子宮腟部ハ圓壔狀ニシテ表面ニ大ナル糜爛アリ。子宮外口ハ横裂シ、分泌物ハ白色粘液樣多量ニシテ、子宮內腔ハ七糎、消息子ニヨルニ粘膜面粗造ニシテ、腔ハ擴張シ容易ニ出血ス。

手術、五月六日、內膜搔爬

組織的所見。本例ハ月經前期ニ於テ搔爬セル粘膜標本ニシテ、鏡下ノ組織的所見モ亦形態的ニ略週期ノ其レニ相當セル像ヲ呈スルモ、仔細ニ觀察スルニ第三例ノ場合ト同ジク腺上皮ニ分泌現象ナク、細胞體濁濁シ、核ハ紡錘形式ハ桿狀ニシテ、陰影狀ニ染色シ核小體ハ不明ナリ。腺腔中ニ「ムチカルミン」可染性物質ヲ有セズ。間質細胞モ月經性脫落膜細胞樣ノ觀ヲ呈スルモノナク、間質ハ稠密ナル淋巴球浸潤ニヨリテ淋巴組織ノ如キ觀ヲ呈セルトコロアレドモ、結節ハ稀ニシテ一標本中ニ乃至三個ヲ發見スルノミナリ。頸管ノ粘膜上皮及腺上皮ハ種々ナル形ニ變化シ增殖シテ、多層トナレルモノアレドモ核分裂像ノ如キヲ認メズ。子宮口晨糜爛部ヨリ搔爬シ得タル粘膜片ニハ結節ヲ認メズ。糜爛部附近ニ於ケル多層扁平上皮細胞ヲ以テ覆レタル下ノ結締織ハ淋巴球ノ浸潤強ク、表面ノ扁平上皮ガ集リテ索狀ニ結締織內ニ進入シ恰モ初期ノ癌腫ヲ思ハシムル像ヲ示セル所アルモ、惡性ノ像ヲ呈スルモノナシ。

第五例。橘○○。二十七歲。未產婦。

既往症、遺傳的及家族的ニ特記スベキ疾患ナシ。二十歲ニシテ肋膜炎ヲ經過シ、醫治ニヨリテ治セリト言フ。

初經十七歲、爾來不規則ニシテ、時々來潮セザル月アリ。持續日數二乃至三日ニシテ少量ナリ。月經時特ニ顯著ナル障碍ナシ。

終經、四月二十五日ヨリ二十八日迄

主訴、二ケ月以前ヨリ下腹痛、薦骨部疼痛、白帶下アリ。

現症、體格中等、榮養可良ニシテ、胸部及腹部ニ特別ナル所見ヲ認メズ。體溫平溫ナリ。

外陰部及腟正常、子宮ハ後轉シ前傾前屈、普通大、硬度尋常、ドウグラス氏窩ハ緊張シ壓痛アリ。左側附屬器ハ示指大ニ肥厚スルヲ觸知シ壓痛アリ。右側卵巢ハ觸知スルモ變化ナシ。子宮腟部ハ正常大、表面滑澤、外子宮口ハ圓形、分泌物ハ粘液樣ニシテ多量ナリ。

手術、五月二十日。開腹術、內膜搔爬。

開腹時ノ所見。子宮ハ前傾前屈シ、癒着ヲ認メズ。左右ノ喇叭管ハ中實性ニシテ、左側ニ於テハ其中央部ニ於テ、榛實大ノ結節アリ。右卵巢ハ右喇叭管ト固ク癒著シ血腫ヲ形成セリ。仍チ右側卵巢及喇叭管切除ヲ行ヒ、左側ノ喇叭管ハ中實性ナル部分ヲ切除シ、同側ノ子宮ノ喇叭管角ニ移殖シ續テバルデー氏手術ヲ行フ。

組織的所見。

本例ハ月經中間期ニ於テ搔爬セル粘膜ノ標本ナルモ、粘膜ノ結核性浸潤及變化著シク進捗セルガ爲ニ鏡下ニ於テ、月經週期ノ像ヲ判定スルコト能ハズ。即チ腺管ハ極メテ少ク、其ノ形狀不正ニシテ間々分岐セルモノアリ間質ハ次粟粒大ノ結節ヲ以テ充サレ、全般ニ亘リテ淋巴球ノ浸潤強ク、粘膜中ニ殘存セル腺管ハ種々ナル變化ヲ呈シ、或ハ腺上皮增殖シテ多層トナレルモノアリ、或ハ腺上皮ハ骰子形トナリ、「クロマチン」ニ乏シキ大ナル一核ヲ有シ、恰モ腎臟ノ細尿管ヲ見ルガ如キモノアリ、或ハ細胞ノ境界ノ

消失シテ「ジンチウム細胞ノ如キ外見ヲ呈セルモノアリ。或ハ腺細胞内及其間ニ空泡ヲ有スルモノアリ。而シテ空泡内ニ淋巴球及核ノ「ピクノーゼ」ヲミルモノアリ。

第六例。清○サ○。二十九歳。一回經產婦。

既往症、遺傳的及既往ニ記スベキモノナシ。

月經ハ十六歳ニシテヒラキ、爾來順調ニシテ、持續日數三乃至四日、血量中等、週期約三十日、月經時特ニ困難症狀ナシ。十七歳ニシテ結婚シ、十八歳ニシテ、正規分娩ヲ經過ス。初生兒ハ分娩後一週間ニシテ死亡セリ。

產褥ニ於テ特記スベキコトナカリキ。

終經、五月二十三日ヨリ二十六日。

主訴、白帶下、一子不姙症。

現症、體格榮養共ニ中等、體溫ノ最高手術前三十七度、胸部ニ變化ヲ認メズ。腹部ハ少シク膨隆スルモ抵抗或ハ腫瘤ヲ觸知セズ。

外陰部發育尋常、陰毛ノ發生可良、腟ニ異狀ナシ。子宮ハ前傾前屈少シク大キク、硬度尋常、可動性ニシテ疼痛ナシ。兩側附屬器ハ肥厚スルモ壓痛ナク、子宮腟部ハ稍々少ニシテ表面滑澤、分泌物ハ白色粘液樣多量、消息子ニヨルニ、子宮腔八糎、擴大シ、消息子通過ニ際シ疼痛ナキモ可成出血ス。

手術、六月二十二日。

內膜搔爬術及喇叭管通氣法ヲ行ヒシニ喇叭管不通ナルニヨリテ開腹術ヲ行ヘリ。

開腹スルニ、腹膜肥厚シ、腹膜面ニ散在性ニ粟粒大ノ灰白色ノ結節ヲ認ム。子宮ハ稍大ニシテ硬ク、漿膜面殊ニ後方ニ於テ多數ノ結節ヲミル。喇叭管ノ漿膜面ニ又同樣ニ小結節ヲ散在シ、左右共ニ子宮ト癒著ス。ドーグラス氏窩ニ透明ナル腹水少量アリ。卵巢ニハ外觀上變化ヲ認メズ。試驗的開腹術ニ終ル。

組織的所見。

本例ニ於テハ結核性變化ノ甚シク進捗セル部分ト輕度ナル部分トヲ認ムルコトヲ得ベシ。

結核性變化高度ナル部分ニ於テハ、腺管ハ極メテ稀ニ散在シ、小結節ガ群集的ニ存在シ、或ハ融合シテ大ナル結節ヲ形成セルモノアリ。全般ニ亘リテ淋巴球ノ浸潤甚シク、腺管ノ稀ニ殘存スルモノナクンバ恰モ淋巴腺ノ結核ノ如キ觀ヲ呈ス。結節ハ類上皮細胞、淋巴球及ビ其ノ間ニ散在セル多核巨大細胞ヨリナル。結節ノ中央部ハ變性シ、核ノ「ピクノーゼ」ヲ呈セルモノヲ混在セル壞死竈ヲミル。大ナル巨大細胞中ニハ其ノ中央部變性シ、其ノ部ノ特ニ「エオジン」ニ濃染スルモノアリ。

此ノ如キ部分ニ殘存セル少數ノ腺管ノ狀態ヲ見ルニ、腺上皮ハ其ノ境界ヲ失ヒ、平等ニ強ク「エオジン」ニ染色シ、核ハ圓形ニシテ淡キ陰影狀ニ染色シ、核ノ構造及核小體ノ如キハ明カナラズ。結節ノ中ニ埋沒セラレタル腺ハ其ノ腺腔ヲ消失シ、上皮ハ類上皮細胞ニ類似セル形態ヲ呈セルモノアリ。

結核性變化ノ輕度ナル部分ニアリテハ粘膜ハ肥厚シ、腺管強ク迂曲シテ月經前期ノ像ヲ示セドモ、官能層ニ於テハ間質ニ著明ナル水腫ト淋巴球ノ瀰蔓性浸潤及結節ノ形成アリ。腺上皮ニハ分泌現象ナク、腺腔中ニ滲出物ヲ有スルモノアリ。毛細血管ハ甚シク擴大充盈シ、間質ニ新シキ出血竈アリ。

臨床的總括

女性生殖器結核ノ稀有ナラザルハ、夙ニ諸家ノ唱フル所ニシテ、マイエル、ールーゲ氏ハ女性屍ノ二%ニ於テ本症ヲ見、生存中身體ノ他ノ部分ニ於テ、結核性病變ヲ證シタルモノニ於テハ、其ノ一五%ニ於テ生殖器ニ結核症ヲ有スト言ヘリ。而シテ子宮結核症ハ、クレーニッヒ、シユレーデル氏等ニヨレバ全生殖器結核症ノ五〇乃至七〇%ニ於テ來ルモノナリト言ヒ、本邦ニ於ケル統計モ略同樣ノ率ヲ示セリ。(大野、五九·六%、内村、六四·七%、木村、二三·五七%)

然レドモ、子宮内膜搔爬ニヨリテ得タル粘膜ノ組織的檢索ニ於テ幾許ノ頻度ニ於テ、子宮ノ結核症ノ出現スルモノナルヤニ就テハ報告稀ナリ。ワスメル氏ハ約十ケ月間ニ本症ノ六例ヲ得、其中四例ハ搔爬粘膜ヨリ之ヲ證明シタリト言ヒ、武田氏ハ朝鮮ニ於テ四十四例ノ搔爬内膜片中四例ヲ得テ、搔爬粘膜ニ於テ證セラル、本症ノ頻度ヲ九「プロセント」ナリト言ヘリ。余ガ前回ノ報告ニ擧ゲタル九例ハ搔爬内膜百四例中ヨリ得タルモノニシテ、其ノ際本症ノ頻度ヲ以テ八·五「プロセント」ナリト報告シタリシガ、其ノ後半歲ナラザルニ再ビ本症ノ六例ヲ得タルヲ以テ見ルモ本症ノ稀ナルモノニ非ザルヲ知ルヲ得ベシ。

一般ニ生殖器結核症ノ成熟期間ニ於ケル婦人ニ多キハ、統計上明カナル所ニシテ、子宮ノ結核症モ亦コノ時期ニ多シ。余ノ十五例ニ就テ之ヲ年齡別トスレバ、

二十一歲	一	例	二十二歲	一	例	二十三歲	四	例	二十四歲	三	例
二十五歲	一	例	二十六歲	一	例	二十七歲	一	例	二十九歲	一	例
三十一歲	一	例	四十歲	一	例						

ニシテ、十五例中、十三例ハ二十歲乃至三十歲ノ婦人ニ屬ス。

子宮結核性內膜炎ノ症狀ニ就テ、余ハ前回ノ報告ニ於テ其ノ婦人ノ一般狀態ノ如キハ、其ノ診斷上餘リ重要ナル意義ヲ有セズ寧ロ月經異常、其ノ隨伴症狀、白帶下及ビ不姙症等ノ本症診斷上ニ於テ、參考トスベキ價値アルコトヲ論ズルトコロアリタリ。而シテ余ハ更ニ十五例ニ就テ之ヲ總括シテ、其ノ症狀ニ就キテ述ベント欲ス。然レドモ本症ノ殆ド總テハ喇叭管或ハ骨盤腹膜ニ結核症ヲ有スルモノナルヲ以テ、本症ノ症狀ハ隨ツテ此等ノ疾患ノ症狀ヲ包含スルモノナリ。

本症ノ殆ド總テノモノハ續發性ニ來ルモノナルヲ以テ、本症アル婦人ニ他ノ臟器殊ニ肺、肋膜、腹膜等ニ臨床上結核性疾患ノ既往症或ハ合併症ヲ證明スルモノ多キハ當然ノコトニシテ、余ノ症例中ニ於テモ既往ニカヽル疾患ノ歷史ヲ有セルモノ多ク、殊ニ慢性腹膜炎ハ本症ニ於ケル重要ナル既往症或ハ合併症ナリト思惟セラル。卽チ開腹時腹膜ニ結節ヲ認メ或ハ滲出液ヲ有スルモノ多シ。然レドモ時ニ體格榮養共ニ可良ニシテ、一見結核性疾患ノ如キモノヲ想像シ得ザル婦人ニ於テ、本症ヲ發見シテ意外ノ感ニ打タルヽコトアリ。發熱ノ如キハ缺如セルモノ多數ナリ。內診所見上ニ於テモ、子宮ニハ觸知スベキ變化ナク喇叭管ニ於テハ輕度ノ腫脹ヲ觸知スルコト多シ。コハ殆ド總テノ場合ニ喇叭管ノ結核症ヲ合併スルヲ以テナリ。

メルレッチ氏ハ本症ノ、子宮ノ發育不全等ヲ伴フコト屢々アリト言ヘドモ、余ノ例ニ於テハ特ニ斯ノ如キ現象ヲ認ムルコト能ハザリキ。

本症ノ不姙症ヲ來スコト多キハ、先キニ余ノ論ジタル所ニシテ、ワスメル氏ノ六例中四例、武田氏ハ四例中三例ニ於テ不姙ナルヲ證シタリ。而シテ余ノ十五例ノ婦人ニ就テ之ヲ見ルニ、一例ヲ除クノ外ハ結婚後三年以上ヲ經過シテ尙不姙ナルモノ實ニ十一人ニ達シ、其他二例ハ各一回ノ正規分娩ヲ經過シタル婦人ナレドモ、其中一例ハ更ニ其後流產シ、一例ハ一子不姙症ナリ。而シテ殘リ二例ハ各姙娠五ケ月乃至六ケ月ニ於テ流產シ、爾來數ケ年不姙ナリ。余ノ症例中流產セルモノ三例アリ。此等ノ流產ノ原因ヲ以テ直チニ內膜卽チ脫落膜ノ結核性變化ニ歸セントスルハ、多少

輕卒ノ嫌ナキニ非ズト雖モ、此等ノ例ニ於テハ何レノモノニ於テモ他ニ流產ノ原因ヲ發見シ得ズ。而シテ此等ノモノノ粘膜ハ何レノモノモ組織的ニ病變ノ高度ナリシコトヨリ推論スレバ、內膜ノ結核性變化ガ流產ノ原因ヲナシタルモノナルベシト思惟ス。然レドモ本症ノ變化ノ尙輕度ナルモノニ於テハ、姙娠ノ持續必ズシモ不可能ナラズシテ姙娠末期マデ達シ得ルコトハ、今日マデ報告セラレタル實例ニヨリテモ確實ナルヲ以テ其ノ病變ノ輕度ナルモノニ於テハ姙娠持續ノ不可能ニ非ザルコト言ヲ俟タズ。而シテ又生殖器結核症ノ成熟期婦人ニ多キガ爲ニ本症ト姙娠、分娩、產褥等ノ生理的現象トノ間ニモ重大ナル關係アルコトハ首肯シ得ベキトコロニシテ、本症ノ流產後或ハ分娩後急激ニ增惡シ、或ハ全身ノ粟粒結核ヲ起スコトアルハ周知ノ事ナリ。之ニ反シ其ノ病變ノ一程度以上ニ進行セルモノニ於テハ、姙娠ノ中絕ヲ來スコト多シ、故ニ、姙娠前半期ニ於テ原因不明ノ姙娠中絕アルトキハ、本症ノ存否ヲ疑フコトヲ要スト思考ス。

生殖器結核ヲ有スル婦人ノ初潮ハ一般ニ遲シト言ヒ、且其ノ原因ヲ本症ニ屢々合併スル生殖器發育不全ニ歸スルモノアリト雖モ、余ノ例ニ於テハ之ヲ認メ得ザリキ。

シユレーデル氏ハ四十四例ノ生殖器結核症中、月經ニ異常ナカリシモノ二十七例、數週間持續セル無月經ノモノ四例、數ケ月ニ亘リテ無月經ナリシモノ十二例、子宮出血アリシモノ一例アリシト言ヒ、結核性子宮內膜炎ニ於テモ內膜ガ甚ダシク侵害セラレザル限リハ、月經ノ週期ニハ異常ナキコト多シト言ヘリ。而シテ氏ハ喇叭管或ハ卵巢ノ結核ヲ合併セル子宮ノ結核性內膜炎十一例中、既往ニ月經週期ノ異常ナカリシモノ四例、數ケ月間無月經ナリシモノ五例、二ケ月持續セル出血アリシモノ一例、產褥一年半ニシテ月經來潮セザルモノ一例アリシト稱シ、此中月經週期ノ異常ナカリシ四例ハ粘膜ノ結核性變化輕度ナルカ中等ナリシモ、他ノ七例ハ何レモ高度ニシテ、正常ノ週期像ハ判定シ得ザリキト言ヘリ。フエロニー氏ハ生殖器結核症ニテハ、出血ヲ見ルコト多シト言ヒ、グレーンベルグ氏ハ六·五%ニ於テ無月經ヲ、四一%ニ於テ月經過多アリシト言ヘリ。余ノ十五例ニ就テ觀察スルニ、十一例ニ於テハ月經ノ週期ニ變

化ナク、一例ニオイテハ二ケ月每ニ月經來潮シ血量少シト言ヒ、一例ニ於テハ時々無月經トナルト言ヒ、殘リ二例ニ於テ子宮出血ヲ訴ヘタリ。而シテ此中月經正調ナルモノニ就テ見ルニ月經ノ持續日數二乃至四日ニシテ、血量ハ中等量乃至少量ナルヲ常トシ、殊ニ以前ヨリモ著シク少量トナレリト答フルモノ多キハ注意スベキコトナリ。此レ畢竟子宮內膜ニ於ケル結核性變化ノ高度トナレル結果其ノ變化ノ甚ダシキ部分ノ週期性ニ關與セザルガ爲ニシテ、第六例ノ如キハ正ニ其ノ代表者ナリト信ズ。而シテ余ノ例ニ於テハグレーンベルグ氏ノ言ヘルガ如ク月經過多ノ症狀ヲ呈セルモノナカリキ。

本症患者ノ訴フル自覺症狀中比較的多キモノハ下腹痛、薦骨部疼痛、腰痛ナリ。而シテグレーンベルグ、武田氏等ハ月經困難アルモノ多シト言ヒ、コーン氏ハ月經中及ビ月經後ニ於テ困難症狀アリト言ヘリ。余ノ症例中月經困難ハ六例ニ於テ認メタルノミナレドモ、下腹痛、腰痛及ビ薦骨部疼痛ノ如キハ殆ド大部分ノモノニ於テ之ヲ見タリ。

余ハ前回ノ報告中白帶下ノ本症ニ必發ノ症狀ナルヲ述ベタリ、而シテ白帶下ノ原因トシテハ子宮內膜ノ炎症ニヨル滲出物ヲ考慮スベキハ勿論ナリト雖モ最モ大ナル影響ヲ有スルモノハ頸管粘液腺ノ機能亢進ナルモノ、如シ。然レドモ頸管粘膜ハ結核性變化ヲ呈スルコトナキヲ以テ、其ノ分泌物ノ性狀モ亦他ノ慢性頸管加答兒ノモノト差異ナシ。子宮口唇ノ糜爛ハ余ノ十五例中六例ニ之ヲ認メタリ。其ノ大キサ不定ニシテ何等特異ナル所見ヲ呈セズ、恐ラク分泌亢進ノ結果生ジタルモノナルベシ。

組織的所見總括

子宮內膜ニ來ル結核性變化ハ瀰蔓性乾酪樣內膜炎ト結節樣內膜炎ノ二種ニ大別スルヲ得ベシ。此中前者ハ比較的稀ニシテ大部分ハ後者ニ屬スルモノナリ。而シテ余ノ得タル十五例モ亦皆後者ニ屬スルモノニシテ所謂 Endometritis phthisica tuberculosa nach Aschoff ナリ。

シユレーデル氏ハ結核性子宮內膜炎ニ於テ、月經ニ異常ナキモノニ於テハ組織的ニ其ノ內膜ノ變化輕度ニシテ、週期性變化ヲ認メ、月經異常アルモノハ其ノ變化高度ニシテ內膜ノ週期像ヲ認メ難シト言ヘリ。余ノ例ニ就テ視察スルニ、臨床的ニ最終月經時日ヨリ算定シ搔爬時日ノ月經後期ニ相當セルモノ三例、間歇期ニ相當セルモノ七例、月經前期ニ相當セルモノ五例ニシテ、之ヲ組織的ニ觀察シテ月經後期ノ像ヲ呈セルモノ三例、間歇期ノモノ四例、前期ノモノ五例ニシテ、間歇期ノ殘リ三例中、一例ハ循環推移ノ狀ニシテ他ハ粘膜ノ變化高度ニシテ、組織像ニヨリテ月經時日ヲ判定シ得ザリキ。是ヲ以テ見ルニ內膜ノ結核性變化ノ尙輕度ナル限リニ於テハ尙良ク其ノ週期的變化ヲ觀察スルコトヲ得ベキガ如シ。

月經前期ノ子宮內膜ノ結核性變化ノ組織像ハ他ノ時期ニ於ケルモノト些カ趣ヲ異ニスル所アリ。コレ前期內膜ニ於テハ厚キ官能層ノ形成アリ、而シテ其ノ官能層ノ腺管及ビ其ノ周圍ニ於テ加答兒性炎症ノ存在スルコト多ク、其ノ浸潤ノ程度ニヨリテ腺管ハ種々ノ狀態ヲ示スヲ以テナリ。結節ノ形成ハ粘膜ノ下層ニ認メラルヽコト多シ。

腺管周圍ニ淋巴球ノ浸潤アル場合ニハ腺管ノ上皮ハ健常ナル粘膜ノ其レトハ全ク異リ、原形質ハ溷濁シ核ハ桿狀ヲ呈シ所謂小桿狀細胞トナリ、其ノ上皮間ニ淋巴球浸潤ス。更ニ浸潤高度ナルモノニ於テハ腺腔ハ全ク滲出物(淋巴球、白血球、壞死セル腺細胞)ヲ以テ充サレ腺管ハ著シク擴大セラレ、健常ナルモノヽ良ク數倍ニ達スルモノアリ。而シテカヽル腺管ノ上皮ハ低キ骰子形ノ細胞トナリ退行變性シ、甚ダシキモノハ核ハ融解シテ消失シ、腺管全ク壞死ニ陷ルモノアリ。

間質ニ於テハ結核性變化ノ輕度ニシテ淋巴球ノ浸潤ナキ部分ニ於テハ、間質細胞原形質ニ富ミ肥大スト雖モ、浸潤强キ部分ニ於テハ肥大セズ原形質ニ乏シキ結締織細胞ナリ。而シテ殆ド除外ナク間質ノ處々ニ水腫ヲ證明ス。尙月經前期子宮內膜ニハカヽル加答兒性炎症以外ニ結節ヲ形成スルモノアリ。然レドモ結節ハ稀ニ孤立ノ結節ヲ認ムルノミニシテ其ノ形態モ定型的ナラズ多クハ大ナル核ヲ有スル結締織細胞或ハ全ク上皮細胞樣ナル所謂類上皮細胞及ビ淋巴

球ヨリナリ稀ニ巨大細胞ヲ認ム。

カクノ如キ結核性變化ヲ蒙レル月經前期子宮内膜ヲ「ムチカルミン」ニヨリテ其ノ分泌ノ狀ヲ檢シタルニ五例中一例ニノミ、腺腔及ビ腺細胞ノ腺腔端ノ染色セラレタルモノヲ見、他ハ悉ク陰性ナリキ。カヽル所見ヨリ考察スルニ結核性子宮内膜炎ニ於テモ、其ノ變化ノアル程度ニ止マレルモノニテハ子宮内膜ハ尙卵巢ホルモン」ニヨリテ反應シ良ク週期的變化ヲ營ミ、月經前期ニ於テ官能層ヲ形成スト雖モ、仔細ニ觀察スルトキハ腺上皮ノ狀態及ビ其ノ分泌機能、間質細胞ノ肥大等凡テ多少ノ障碍ヲ受ケ其ノ狀態健康粘膜ト著シキ差違アルモノナルガ如シ。

間歇期及ビ後期ノ子宮内膜ニ於テハ間質ニ結節及ビ淋巴球ノ浸潤ヲ認メ、尙屢々粘膜上皮及ビ腺上皮ニ比較的特有ノ變化ヲ認ムルモノナリ。

結核性子宮内膜炎ニ於テ、其ノ腺上皮ニ變化ヲ認メタルハフランケ氏ヲ以テ甫トナスト云フ。氏ハ本症ニ於テハ、腺上皮ハ正常ノ圓柱狀ナル性質ヲ失ヒ圓形或ハ多稜形トナリ、核ハ大キク泡狀ヲ呈シ、增殖シ數層ヲ成シ乳嘴狀ヲ呈スルコトアリト言ヒ。而シテ氏及ビオルトマン氏ハ腺上皮ノ上皮樣細胞及ビ巨大細胞ニ變化スルヲ見タリト云フ。此ノ如キ腺上皮ノ形態變化、增殖、病的化生ハ其後尙カウフマン、アルテルツーム、ショットレンデル、ケルマウネル、スタイン氏等ノ證明セシ所ニシテ、ショットレンデル氏ハ此ノ如キ變化ノ結核性子宮内膜炎ノ早期ニ於ケル診斷上ノ價値ヲ論ジ、カヽル變化ハ本症ニノミ特有ナルモノニ非ズシテ、分娩後間モナキ子宮内膜及ビ新シキ淋疾ノ子宮内膜ニ來ルコトアリト言ヘリ。尙又粘膜ノ上皮又ハ腺上皮ノ增殖ノ著明ナルコトヨリ子宮結核症或ハ喇叭管ノ結核症ガ癌腫ノ素因或ハ誘因ノ一部ヲナスコトアリト信ズルモノアリ。ワルラート、フランケ、クラウス氏等ハ本症ト癌腫ト合併セルモノヲ報告セリ。

余モ亦本症ニ於テ、子宮腺上皮ノ多層トナリテ漸次腺腔ヲ充塡セントスルガ如キ像ヲ呈シ、此ノ一部分ノミ見ルトキハ腺癌ノ初期ノ如キ所見ヲ呈スルモノヲ見タリ。然レドモ此等ノ標本ニ於テモカヽル變化ハ一部ノミニ止マリ、上

皮細胞增殖ノ狀態ニ於テ、惡性增殖ノ像又ハ核分裂像ノ如キモノヲ認メタルコトナシ。而シテ尙此ノ如ク高度ノモノニ非ズシテ腺上皮ノ只數層トナレルガ如キモノハ本症ニ於テ屢々見ル所ナリ。然レドモカヽル所見ハ月經前期ノ內膜ノ官能層ニハ稀ナルモノナリ。

結節ノ附近或ハ結節中ニ包埋セラレテ殘存セル腺管ノ變化ハ多樣ニシテ、アルモノハ腺上皮ハ退行變性ニ陷リ、原形質ハ「エオジン」ニ强ク染色シ、核ハ膨化シ陰影狀ニ染色シタルモノアリ。或ハ腺細胞ノ境界消失シ腺上皮ハ恰モ「ジンチチウム細胞ノ如キ觀ヲ呈セルモノアリ。或ハ又腺管ノ橫斷面及ビ腺上皮ノ狀全ク腎臟ノ細尿管ニ彷彿タルモノアリ。而シテ其ノ腺上皮ノ原形質ノ淡明ニシテ核ノ泡狀ヲ呈セル腺管ニ於テハ「ムチカルミン」ニテ赤染セラルヽ物質ヲ有スルモノアリ。其他結節中ニ存在スル腺管ノ腺上皮ノ上皮列ヨリ離レテ類上皮細胞ノ如ク變化シタルモノアリ。

內膜ノ血管ハ結節ヲ以テ侵サレタル部分ニ於テハ變化ナキモ、結節ノ周圍ニ存スル小動脈或ハ毛細管ノ內被細胞ハ膨化シ、往々ニシテ管腔ノ閉鎖セントスルモノアリ。

結節ハ多クハ、類上皮細胞、淋巴球、多核巨大細胞及ビ「プラスマ細胞ヨリ成ル。多核巨大細胞ハラングハンス氏型或ハステルンベルグ氏型ニシテ核ハ十數個ヨリ數十個ニ及ブ。而シテラングハンス氏型ニ屬スルモノハ其ノ中心變性シ他ノ邊緣部ヨリモ特ニ「エオジン」ニ强ク染色スルモノアリ。余ハ前回ノ報告ノ際ニ結節及ビ巨大細胞ノ染色ノ內膜ノ週期性變化ニヨリテ影響セラルヽコトヲ述ベタルモ、尙多數ノ追加症例ヲ觀察スルニ、勿論孤立ノ結節ハ多少ノ影響ヲ受ケ、粘膜基礎部ニアルモノト月經前期官能層ニ存スルモノト差異アルモ、其ノ染色ノ相異ハ結節或ハ巨大細胞ノ榮養如何ニ關係スルモノナルコトヲ發見シタリ。

前述セル結核性變化ニヨル腺管及ビ腺上皮ノ變化ハ余ハ前回ノ報告ニ於テ觀察シ得タルトコロニシテ、其ノ後子宮內膜ノ檢索ニ於テ腺管及ビ腺上皮ノ變化ヲ注意シテ檢シタルニ、カヽル變化ヲ認メタル場合ニ於テ之ヲ精査スルニ殆ド常ニ結核形成ヲ證シ得タリ。故ニ余ハカヽル腺上皮及ビ腺管ノ變化ヲ認メタル場合ニ於テハ、多數ノ標本ヲ精査シ

テ結節發見ヲ努力スル必要アリト思惟ス。

五、結　論

一、子宮粘膜上皮及ビ腺上皮中ニ小桿狀ノ細胞ヲ見ルコトアリ。此ノ細胞ハ腺細胞ノ分泌機能ヲ終レルモノナルカ或ハ其ノ退行的意義ヲ示スモノナリ。

二、子宮ノ慢性炎症ハ不正ナル子宮出血ノ原因トナルコト稀ナリ。

三、授乳性無月經婦人ノ子宮粘膜ハ月經後期或ハ間歇期ニ於ケル粘膜所見ニ略々似タル像ヲ呈スルモ、腺細胞ニ分泌現象或ハ核分裂像ヲ認ムルコト稀ニシテ、腺管ハ狹小ナルモ分岐スルモノアリ。

四、百五十例ノ子宮粘膜ヲ檢索シテ、結核性子宮內膜炎十五例、慢性子宮內膜炎ト目スベキモノ三十四例ヲ得タリ。

五、百五十例ノ子宮粘膜中、淋巴濾泡樣觀ヲ呈スル圓形細胞群ヲ有スル粘膜十五例アリ。而シテ此者ニハ眞ノ濾泡構造ヲ有スルモノ無ク且炎症アル粘膜ニ多ク、健康粘膜ニハ稀ニ證明スルヲ以テ、炎症ニヨリテ新生セラレタルカ或ハ炎症ノ後貽トシテ出現セルモノナリ。

六、子宮粘膜ニ於テ集簇セル小動脈ノ斷面ハ、月經前期ニ於テ肥厚セル粘膜ノ迂曲セル小動脈ノ斷面ナリ。

七、余ノ觀察シタル結核性子宮內膜炎患者ハ十五例ニシテ、其ノ大多數乃チ十三例ハ二十歲乃至三十歲ノ婦人ナリ。

八、姙娠前半期ノ原因不明ナル流產中ニハ結核性子宮內膜炎ニ負フベキモノ可成存スルコトヲ知リ得タリ、故ニ原因不明ノ常習性流產ニハ結核ヲ疑フコトヲ要ス。

九、結核性子宮內膜炎ハ其ノ組織的變化輕度ナルモノニ於テハ月經ニ異常ナク不正ナル子宮出血ナシ。然レドモアル程度ニ達セルモノハ經血量ノ少量ニシテ持續日數短キコトアリ。更ニ高度ナルモノハ不正ナル出血或ハ無月經ヲ來スコトアリ。

十、結核性子宮內膜炎ヲ有スル婦人ノ自覺的症候ハ、下腹痛、薦骨部疼痛、腰痛ニシテ時ニ月經困難ノ著明ナルモノアリ(余ノ例ニテハ其ノ四〇%ニ之ヲ認メタリ)。白帶下ハ殆ド盡ク訴ヘラル、症狀ナリ。

十一、結核性子宮內膜炎ニ於テモ其ノ粘膜ノ組織的變化ノ一程度ニ達スルマデノモノニ於テハ、子宮粘膜ハ卵巢ホルモン」ニヨリテ良ク反應シ、月經前期ニ於テ官能層ヲ形成スト雖モ、仔細ニ觀察スルトキハ腺上皮ノ狀態及ビ其ノ分泌機能、間質細胞ノ肥大等ハ障碍セラレ、健康粘膜ノ其レト著シキ相違アルモノナリ。

十二、組織的所見總括ノ條下ニ於テ述ベタルガ如キ結核性變化ニヨル腺管及ビ腺上皮等ノ變化ハ些カ特異ニシテ、カカル腺管及ビ腺上皮ノ變化ヲ認ムル子宮內膜ハ精査シテ結核性結節ノ有無ヲ檢索スルコト必要ナリト思惟ス。

擱筆スルニ當リ久慈教授ノ御懇篤ナル御指導ト御校閲ヲ感謝ス。

Literatur.

1) **Amann,** Mikroskopische gynaekologische Diagnostik. 2) **Albrecht,** Monatschr. f. Gyn. Bd. 34, 1911. 3) **Aschoff,** Pathologische Anatomie. 1923. 4) **安藤畫一**、婦人科學、大正十四年版。 5) **淺田弘太郎**、子宮內膜脂肪ト週期性變化、日本婦人科學會雜誌、第拾參卷。 6) **Buettner,** Untersuchungen ueber die Endometritis Archiv f. Gyn. Bd. 92, 1910. 7) **Driesen,** Endometritis. Zentralbl. f. gyn. 1914. S. 619. 8) **Franpue,** Ueber Endomeiritis Dysmenorrhoe u. Abrasio mucosae. Zeitschr. Bd. 38, 1898. 9) **Frankl,** Beitraege zur Lehre von Uterusmyom. Archiv f. Gyn. Bd. 95. 10) **First,** Ueber Tuben-tuberculose mit Adenom aehnlicher Wucherung der Tuben-schleimhaut. Archiv f. Gyn. Bd. 114, 1922. 11) **Hitschmann u. Adler,** Lehre von Endom-etritis. Zeitschr. Bd. 60, 1907. 12) **Derselbe,** Einn weitere Beitraege zur Kenthiss der normalen u. eutzundeten Uterus-mucosa. Archiv f. Gyn. Bd. 100. 13) **Derselbe,** Der Baw der Uterusschleimhaut der geschlecht-reifen Weibes. Monatschr. Bd. 27, 1908. 14) **Hiumerheber,** Zur Bedeutung der glandularen Hyperplasie u. Hypertrophie der Endometrium. Monatschr. Bd. 30 ,1909. 15) **Hareje,** Zentralb. f. Gyn. 1907. Nr. 47. 16) **Iwase,** Ueber die cyclische Umwandlung der Uterus-schleimhaut. Zeitschr. Bd. 63, 1908. 17) **岩田正道**。喇叭管粘膜ノ週期的變化ニ就テ、北海道醫學會雜誌、第一卷。 18) **Karl,** Hoermann. Ueber das Binde-gewebe der weiblichen Geschlechtorgan. Archiv f. Gyn. Bd. 86, 1908. 19) **Kundrat,** Ueber Genitaltuberclose des Weibes. Archiv f. Gyn. Bd. 114. 20) **Keller,** Gefaess-veraendlungen in der Uterus-schleimhaut zur Zeit des Menstruation.

Archiv f. Gyn. Bd. 69, 1911. 21) **Kaji,** Zur ovarielle Aetiolologie utriner Blutnngen. Monatschr. Bd. 31. 22) **川添**、慢性子宮内膜炎ニ就テ、日本婦人科學會雜誌、第拾三卷。 23) **Moerike,** Die Uterus-schleimhaut in den verschiedenen Alter-perioden u. zur Zeit der Menstrnation. Zeitschr. Bd. 7. 24) **Moench,** Ueber Rundzellen-knoetchen in Endometrium. Archiv f. Gyn. Bd. 108. 25) **Myer,** Archiv f. Gyn. 113, Bd. 1920. 26) **Myer-Ruege,** Die Vorgang in der Uterus-schleimhaut waehrend der Menstruation. Archiv f. Gyn. Bd. 110, 1919. 27) **Menge-Opitz,** Handbuch der Frauen-heilkunde 1922. Auf 28) **Derselbe,** Erkennung derabgelaufene Schwangerschaft. Zeitschr. Bd. 42. 29) **Nicolas,** Temesvary. Zentralbl. f. Gyn. 1924. Nr. 16. 30) **Olshausen,** Ueberchronische, hyperplastische Endometritis der Corpus uteri. Bd. 8, 1875. Archiv f. Gyn. 31) **大槻**、子宮内膜炎ニ於ケル腺增殖ノ診斷ニ就テ、日本婦人科學會雜誌、第十一卷。 32) **大槻**、日本婦人科學會雜誌、第十一卷、第二號。 33) **大野**、**吉川**、日本婦人科學會雜誌、第十五卷。 34) **大野**、日本婦人科學會雜誌、第十一卷。 35) **Pancow,** Ueber dieovarielle Ursache uteriner Blutung Monatschr. Bd. 33. 36) **Derselbe,** Die Metropathia haemorrhagica. Zeitschr. Bd. 65, 1909. 37) **Schickele** u. **Keller,** Die glandulaere Hyperplasie der Uterus-schleimhaut ihre Beziehuugen zu den Uterus-blutungen. Archiv f. Gyn. Bd. 95, 1912. 38) **Schickere,** Monatschr. Bd. 39, 1914. 39) **Schaffer,** Ueber Bau u. Fnnktion des Eileiterepithels beim Menschen u. bei Saugetieren. Monatschr. f. Gyn. Bd. 28. 40) **Stoeckel** u. **Reifenscheid,** Lehrbuch der Gynaekologie. 1924. 41) **Schwab,** Zur Histologie der chronische Endometritis. Zentralbl. f. Gyu. 1907, Nr. 29. 42) **Semb,** Archiv f. Gyn Bd. 43. 43) **Sekiba,** Zur Morphlogie und Histologie des Menstruationscyklus. Archib f. Gyn. Bd. 121, 1924. 44) **Schroeder,** Patogenese der Meno-u. besonders Metrorrhagien. Archiv f. Gyh. Bd. 110, 1919. 45) **Derserbe,** Druesen-epthel-veraenderungen der Uterus-schleimhaut. Archiv f. Gyn. Bd. 88, 1909. 46) **Derselbe,** Beitraege zur normalen u. pathlogischen Anatomie des Endometriums. Archiv f. Gyn. Bd. 98, 1912. 47) **Derselbe,** Anatomische Stasien Studien znr normalen u. path-phisiologi der Menstruations- zyclus. Archiv f. Gyn. Bd. 104. 48) **Derselbe,** Monatschr. f. Gyn. Bd. 50, 1919. 49) **佐藤**、日本婦人科學會雜誌、明治四十一年。 50) **關場**、岡山醫學會雜誌、大正十三年。 51) **Tussenbroeck** u. **Mendes de Leon,** Zur Pathologie der Uterns-mucosa Archiv f. Gyn. Bd. 47, 1894. 52) **Theilhaber** u. **Meier,** Zur Anatomie, Pathologie u. Therapie der chronische Endometritis. Archiv f. Bd. 86, 1908. 5) **德岡英**、近畿婦人科學會雜誌、第三卷。 54) **Uter,** Zur Pathologie der Uterus- schleimhaut. Zeitschr. f. Gyn Bd. 25. 55) **Veit,** Ueber Endometritis. Zeitschr. f. Gyn. Bd. 13, 1886. 56) **Von der Haeven,** Die schleimhaut der Gebaermutter Archiv f. Gyn. Bd. 95. 7) **Winter,** Gynaekologische Diagnostik. 3 Anf. 1909. 58) **Wyder,** Archiv f. Gyn. Bd. 13, 1878. 59) **Derselbe,** Archiv f. Gyn. Bd. 29.

結核性子宮内膜炎ニ關スル文獻ハ先ニ余ノ報告セル日本婦人科學會雜誌、第二十一卷ニ在ルヲ以テ是ヲ略ス。